

「磁気切符の秘密 (4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

磁気切符の裏側(磁気面)には、恐ろしく大量の情報が書きこめることがわかった。発券されたばかりの切符と、自動改札機を通ったあとでは、その磁気情報が必ず変化しているはずである。それも調べてみたいと思った。しかし、切符は降車駅の自動改札で回収されてしまい、手元に残らない。まさか、茗荷谷駅のホームや丸ノ内線の車内で、切符に鉄粉をまいていたら、爆弾テロと間違えられて、通報されそうだ。

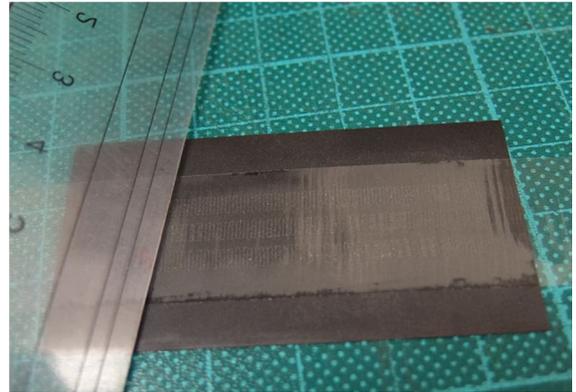


一つだけ方法を思いついた。私が地下鉄で通勤する場合は、大手町駅で乗り換える。丸ノ内線と東西線のホームは相当に離れていて、乗り換え客は、一旦改札の外に出る。大手町よりも先に行ける切符の場合、定期券と同じように、自動改札から切符が出てくる。30分以内なら、乗り換えの改札を通れるのだ。その間にラーメン屋、カレー屋、ドイツ文房具屋に余裕で寄れる。ツワモノは、立ち飲み屋で一杯やることも可能。

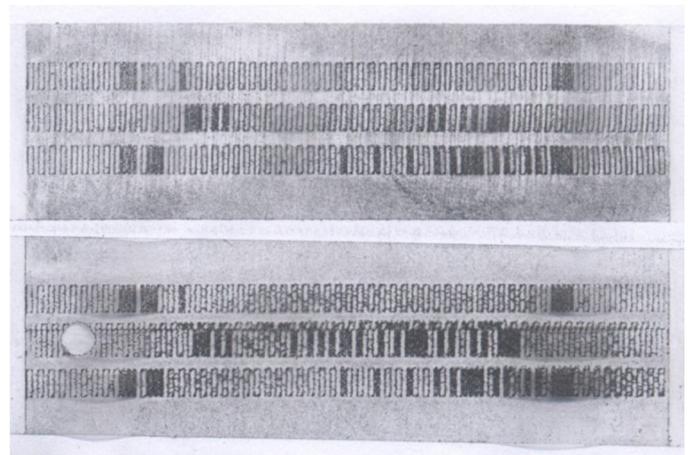
写真は上が購入直後の切符、下が大手町駅の出たあとの切符だ。右側に「改札通過済」を意味する孔があいている。切符の色がちがうのは、撮影時の光線の影響である。



まず、朝の茗荷谷駅で、200円(門前仲町まで)の切符を買った。そのまま学校に持って行って、鉄粉で裏面の磁気情報を読み取ってみた。



セロテープを貼ったあと、ものさしで表面をこすると、よく転写できることもわかった。使用前の切符は「有価証券」である。もちろん、磁気情報を故意に書き換えることは違法である。(書き換えは不可能であるが・・・)鉄粉も、実験後に完全にぬぐっておかないと、自動改札機を故障させる恐れがある。その後、帰宅時に大手町駅で乗り換える時に、切符を持ち帰った。その後の区間は、別に170円の切符を買った。「放棄」した残額の30円と合わせて200円の損失だ。



しかし、200円分の成果はあった。上段が購入直後(使用前)のバーコード、下段が大手町駅出場後のバーコードである。見たところ、3列のうち、1列目と3列目には、全く変化がないが、2列目のバーコードが何本も変化している。恐らく2列目が、乗車時刻、降車時刻、降車駅などの情報なのだろう。面白い!